

☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆

2016年度 東京 SJCD 第3回例会のご案内

晩冬の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る3月5日(日)に開催されます2016年度東京 SJCD 第3回例会につきましてご連絡申し上げます。今回のインサーストレイニングは東京 SJCD の白鳥清人先生にご登壇いただきます。そして審美領域での大きな骨欠損への対応や多数歯欠損への対応について、他では決して聞けないようなことまで詳しくお話しいたします。そこで、今回のインサーストレイニングは特別に枠を拡大して「インプラント治療成功の秘訣」を3時間に渡って伝授していただく事になりました。必見です。また、今回も二人の会員にインプラント治療のケースプレゼンテーションをお願いしております。

今回は、インプラント盛りだくさんの濃い内容となっております。皆様、万障お繰り合わせの上、是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。

日時 2017年3月5日(日) 受付開始 9:30 / 開演 10:00~17:00

会場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1 **TEL** 03(3265)8211

-インサーストレイニング-

白鳥清人先生 (白鳥歯科インプラントセンター)

Now, Implant therapy ?

- A Philosophy of Shiratori Dental Implant Center -

-ケースプレゼンテーション1-

李 昌弘先生 (プラム四谷歯科クリニック)

多数歯欠損に対しインプラントを用いた咬合再構成

-ケースプレゼンテーション2-

宇毛 玲先生 (ウケデンタルオフィス)

上顎両側中切歯欠損に対して歯間乳頭の再生を考慮しインプラントを行った症例

白鳥清人先生 (白鳥歯科インプラントセンター)

演題

Now, Implant therapy ? - A Philosophy of Shiratori Dental Implant Center

略歴

1985年 東京歯科大学卒業

1988年 白鳥歯科医院 開業

2003年 白鳥歯科インプラントセンター開業

2004年 東京歯科大学大学院歯学研究科(病理学)修了

現在

白鳥歯科インプラントセンター

土屋歯科クリニック&Works

インペリアルタワー名執歯科

昭和大学歯学部顎口腔疾患制御外科学兼任講師

九州大学大学院口腔機能修復学講座クラウンブリッジ補綴学分野非常勤講師

日本口腔インプラント学会専門医

静岡口腔インプラント研究会副会長

OJ(Osseointegration study club of Japan)常任理事

国際先進学際歯科学会理事

IPA(International Piezosurgery Academy)アクティブメンバー

EA0、A0アクティブメンバー

東京SJCD、クラブ22、デンタルコンセプト21、九州インプラント研究会、各スタディークラブ所属

抄録

現代科学は、ソフトとハード、その両面からの進歩により、大きな変革を我々の生活の中にもたらし、インプラント治療においても例外ではない。

今や、インプラント治療は、欠損歯列の治療オプションとして一般臨床の中で広く定着し、患者自らもインプラント治療を希望して歯科医院の扉を開くようになってきた然し乍らその反面で、安易なインプラント治療により、様々な問題点、トラブルも表面化し、マスコミ等においてもネガティブな側面からの報道がなされている。患者は、インターネット等から多様な情報を収集し、医院へ足を運ぶことも多く、我々医療提供者側は、より一層のプロ意識を持ち、学習、研究に勤しまなくてはならない。私自身は1992年からインプラント治療を臨床に採用してきて、すでに25年が経過しようとしている。幸い大きなトラブルなくここまで来たが、日々自らの臨床に関して、自問自答を繰り返している。これまで多くの患者に治療を通して教えられてきたこの貴重な経験を生かしながら、常に情報収集を怠らず、さらに真摯にインプラント治療に向き合っていきたい。

私は、インプラント治療において大切なことは、まず基本厳守、そして、適切な診査診断、さらに低侵襲で正確な外科手術、そして審美性と機能性、最後に永続性を兼ね備えた補綴物の提供であると考えている。インプラント治療においては、基本的なことを厳守しながら、最新テクノロジーを応用することで更なる高い次元の治療が達成出来るようになるのではないだろうか。

今回の講演では、インプラント治療の最も重要である根幹について知識を整理し、審美インプラント治療、骨欠損への対応、多数歯欠損症例のインプラント治療などについて、自分の臨床を元に、現在におけるインプラント治療、及び今後のインプラント治療の方向性について述べたい。

-ケースプレゼンテーション1-

李 昌弘先生 (プラム四谷歯科クリニック)

演題

多数歯欠損に対しインプラントを用いた咬合再構成

略歴

2001年 日本大学松戸歯学部 卒
2004年 原田歯科クリニック 勤務
2005年 東京 SJCD レギュラーコース受講
2012年 プラム四谷歯科クリニック 開院

抄録

インプラントを用いた完全無歯顎の口腔再建には数十年の歴史があり、予知性のある治療法と認識されています。それにより QOL の改善がもたらされ、粘膜支持タイプの義歯と比べ、明らかに優れた結果が達成されるといわれております。

今回発表させていただく症例は長年にわたって歯を失い咬合の支持が無い状態でした。咬合の状態を何度も再評価し安定した顎位を模索しました。また、全身疾患を患っていたため内科医と連携を取りながらなるべく侵襲の少ない手術を考慮しました。本症例を通じ苦労した点なども含めてご報告させていただきます。

-ケースプレゼンテーション2-

宇毛 玲先生 (ウケデンタルオフィス)

演題

上顎両側中切歯欠損に対して歯間乳頭の再生を考慮しインプラントを行った症例

略歴

1992年 明海大学歯学部 卒業
2000年 東京八重洲クリニック 勤務
2005年 ウケデンタルオフィス 開院

抄録

前歯部審美領域において抜歯後における歯槽骨の吸収はその後インプラント治療の審美性に強い影響を与える。特に多数歯欠損において歯間乳頭の喪失は致命的な結果を招く恐れがある、インプラント上部構造に高い審美性を獲得するためには隣接する周囲歯との形態、色調の模倣は当然であるが、もっとも重要なのは周囲軟組織との連続性と調和である。特にインプラント上部構造に付随する gingival margin と papillae の存在が重要であり、それらを如何に再構成するかが審美性獲得の命題である。今回、上顎両側中切歯欠損に対して歯間乳頭の再生を考慮しインプラントを行った症例をご報告させていただき、ご参加の先生方のご指導、ご批判を受け賜りたいと思います